

グラップルソー研修時における 無線機の活用について

南木曾署・大山製品事業所 O森 和也
彌川 隆之
B セット

はじめに

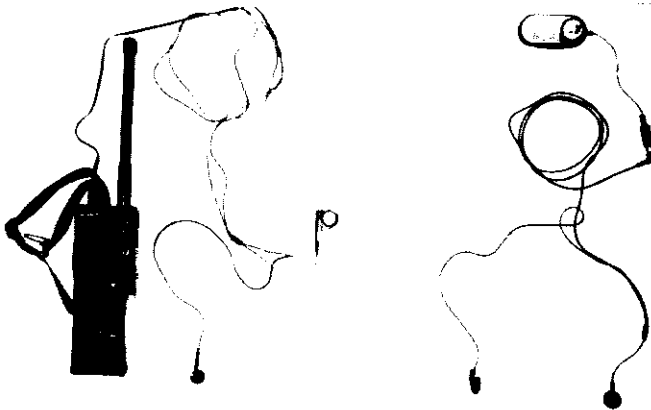
近年、林業においての高性能機械の開発が進められ、機械化による作業環境の改善を進めようとしている中、国有林生産事業においても新しい機械が導入されている。

その中の一つに数えられるグラップルソーについては、新たに使用する場合、大型特殊免許の取得と一定期間の研修を行うことが定められているが、この研修を行うにあたり、安全面、操作技術の習得方法にいろいろと問題が生じていた。

そこで当事業所では、土木重機誘導用無線機を使用して研修を行ったところ、無災害で効果的な研修を実行でき、安全面、効率面共に多くの成果を得られたので報告する。

1. 研修の方法

(1) 使用機械 (写-1)



写-1 トランシーバー及びレシーバー

2. 研修結果

(1) 操作一般

表-2

通例の場合	無線機を使用した場合
1, 初歩的な操作しか覚えられなかった。	1, 幅広い操作が習得できた。
2, 作業の流れに乗れずチェンソーマンとの連携を取るのに苦労した。	2, 指導者の誘導で作業の流れに乗れ、盤台作業者との連携が取れた。

(2) 安全面

表-3

通例の場合	無線機を使用した場合
1, 慣れていないため、操作まちがいに より、作業者や回りの障害物などに 接近し、ハットした時が何度もあった。	1, 指導者が操作方法についても、 指導することができたので、操 作まちがいによるヒヤリ・ハット は、一件もなかった。
2, 後方、両サイドの感覚がわからず、 常に不安であった。	2, 指導者が誘導したので、安全 に安心して操作することがで きた。
3, 指導者が、グラップルソーの近く にいたため、研修者の視界を狭めた り、指導者が危険な場合があった。	3, 指導者は安全な位置より指示 できたので、安全に研修ができ た。

(2) 無線機仕様

表-1 無線機仕様

	ソニートランシーバー ICB-33H	ソニーレシーバー RCB-22
空中線電力	500mW	
周波数	A 27.120MHZ B 27.144MHZ	A 27.120MHZ
電源	SUM3×6 (9V)	DC-2.4V 充電式
仕様	手持ちマイク	イヤホン
重量	430g	61g

(3) 研修の方法

イ. 指導者は、トランシーバーを腰のベルトに取り付け、マイクを胸の位置に取り付けた。(写-2)

ロ. 研修者は、レシーバーを胸のポケットの中に入れて、イヤホンで誘導者の声が聞こえるようにした。(写-3)

なお、指示が確認できた時、グラップルソーのクラクションで合図を行った。



写-2 指導者



写-3 研修者

3. まとめ

- (1) 今回、無線機を使用し、ヒヤリ・ハットが無かったことから、安全に研修が進められる。
- (2) 指導者が、仕事の流れに従って指示を送ることができるので、効率よく研修が進められると考えられる。
- (3) より多くの操作方法を学ぶことができ、操作技術が早く向上する。

おわりに

今後、土木重機・集材機等の研修に積極的に活用し、より安全に研修を進め、無災害の職場づくりに務めたい。